

長崎に水道ができるまで～日本で3番目の水道～



明治の長崎は港町として栄えていたため、たくさんの外国の船が入ってきました。

船が入ってくる時に、コレラなどの病気も一緒に長崎へやって来たため、長崎では、**キレイな水が必要**になりました。



1

水道の必要性を強く感じていた、当時の**日下県令**（今の県知事）は、水道建設計画を立てるため、**吉村技師**を長崎にお呼びしました。

また、**金井区長**（今の長崎市長）と話し合い、長崎に水道を作るために協力し合う約束をしました。



金井区長



日下県令



長崎
に来て！



吉村技師

2

吉村技師の設計によると、水道を作る費用は**30万円**（当時の長崎市の年間予算は4万円）となりました。



3

水道をつくるにはお金がたくさんかかるため、住民からの**激しい反対運動**がおこりました。日下知事は、国に話をして補助金をもらったり、貿易積立金を使うことにしたりして、お金を集めました。

また、たくさんの話し合いを重ね、やっと**建設が認められました**。

高すぎる。
反対！



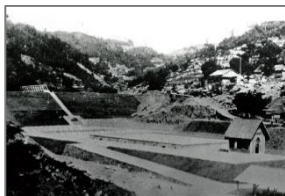
賛成



4

たくさんの人たちが頑張って、明治24年3月に**日本で3番目**の近代水道が本河内にできました。

長崎には大きな川がなかったので、ダムを造り、水を確保しました。このような**ダム式の水道がつけられたのは、日本で初めての**ことでした。



完成当時の本河内浄水場



完成当時の本河内高部ダム

5

日本に水道ができた順位



おまけ